

令和6年度 多職種連携研修計画（案）

（1）相互理解の促進

①医療・介護関係者向け研修

目 的：「相互理解」というテーマで、医療関係者には介護側の事情を介護関係者に医療側の事情を知っていただく機会とし、お互いの距離や隔たりを縮め、顔の見える関係の中で更に連携を高めることを目的とする

a. 医療関係者向け研修

目 標：・退院後のご本人がどういった環境でどのような生活をしているかを知ること
とで、退院後の生活のイメージを深めることができる
・イメージを深めることで、病院での受け入れ時の対応や情報整理、退院調整時の連携力の向上となる

テ ー マ：仮）退院後、施設でどういった生活をしているか知っていますか？

講 師：介護老人福祉施設 or 有料老人ホームの看護師か相談員

研修時間：1時間

内 容：・施設の紹介（配置職員の紹介、利用者の視点で施設の1日の流れ等）
・施設でできるケアについて（施設で行っている医療処置について等）
例）施設では安全に配慮しつつ、施設内の移動も生活リハビリの一環として行っている等
・退院時の情報共有の必要性について
例）食形態等病院からの情報によって、退院後の生活時に工夫をしている等
・施設の困りごとや事情について
・事例紹介（軽度の利用者、重度の利用者のように振り分けも検討）
・医療・介護連携マップについて
・各施設種別の紹介

開催方法：集合開催（キャラバン方式 全3回実施予定）

- ・1, 2回目は、函館市内の病院（候補としては、函脳外と日赤）
- ・3回目は、医師会病院とする。

開始時間は、1, 2回目は、17:30~18:30（予定）

3回目、18:30~19:30（予定）

時 期：医療向け研修も介護向け研修も5月、8月、年明けの2月を予定

b. 介護関係者向け研修

目 標：・介護関係者に、医療機関の病床機能やこの先の医療政策の展開を理解してもらうことで、適切な連携につなげることができる
・病院の中で行われている入退院支援の流れや現在の病院での困りごとを知ること、どのような連携が必要かを理解できる

テ ー マ：仮）急性期病院の事情について ~思いやりのある連携~

講 師：急性期病院の医療相談員

研修時間：1時間

内 容：・急性期病院の機能と役割

急性期病院の機能と役割をより明確にして、本来の役割を実施する必要性

・地域医療支援病院，紹介受診重点医療機関としての機能と役割

※地域医療支援病院かつ，紹介受診重点医療機関である病院は函病

・入退院時の連携について（入退院時の加算要件や情報共有などを含めた話）

・急性期病院の困りごとや事情について

開催方法：集合開催（同じ会場を使用し，計3回実施予定）

時 期：医療向け研修も介護向け研修も5月，8月，年明けの2月を予定

②オープンカンファレンス（年度中に検討）

③研修会等コーディネート

各関係団体へ連絡・確認：6月に確認書類 配布

*医療・介護各関係団体窓口一覧の内容の確認，更新

（2）連携強化

①第9回函館市医療・介護連携多職種研修会

（ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催）

日 時：令和5年10月19日（土）14：00～17：00（予定）

場 所：国際ホテル

方 法：集合開催

形 態：講演，ロールプレイ，グループワーク

対 象 者：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関連従事者

目 的：その方らしい生き方を実現していくため，加齢や疾病による影響から心身の状態が変化していく本人の不安や葛藤などに寄り添い，もしもの時に本人の想いを見逃さないように支援に関わる一人ひとりが意識していけることを目的とする

目 標：・もしもの時のために利用者の想いをどのようなタイミングでどのような方法で行うのかを理解する
・もしもノートを活用しながら ACP を行う際の留意点などを知る
・本人の想いを叶える支援の実現を目指し，医療・介護関係者が情報共有していく必要性を考える

テ ー マ：仮）「地域でつなげよう ACP の輪」

～この地域での ACP 連携を目指して～

内 容：・もしもノートについて（概論）

・もしもノートができるまで（経緯，経過等）

・サマリーと併せた活用法・事例

・ロールプレイ

もしもノートの聞き取り実践

※職員役/利用者役の二人一組（どちらの役も実施）

- ・グループワーク

もしもノートの聞き取り実践後における意見交換

講師：座長～現在打診中

講師～これから選定（情報共有ツール部会のコアメンバー）

②入退院支援

「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催）

「入退院支援連携強化研修会（サマリー編）」（情報共有ツール作業部会主催）

※各部会・分科会にて開催検討

③急変時対応（急変時対応分科会実務者会議主催）

※実務者会議にて検討

（3）多職種連携の専門性の向上

○函館市における多職種連携への理解の促進

- ・出張講座メニューの追加・更新及び各関係団体へ周知・案内の継続

（4）人材育成

○センター主催研修会への見学参加

- ・市内の医療系・福祉系の教育機関に研修案内・出前講座を継続する
- ・出前講座メニューの追加・更新及び各教育機関への周知・案内の継続